



平成24年3月期 第2四半期決算説明資料

(平成23年4月～平成23年9月)

平成23年12月1日



証券コード:1905

目次



平成24年3月期 第2四半期決算の概要

平成24年3月期 業績見通し

- 当資料は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づくものであります。
- 経営環境の変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績は記載の予想値と大きく異なる結果となる可能性があります。



平成24年3月期 第2四半期決算の概要

平成24年3月期 業績見通し

平成24年3月期 第2四半期決算の概要



➤ 工法の優位性が評価され売上高は増加したものの、受注単価の下落により業績の回復は鈍化

■ 連結売上高	89億22百万円	前年同期比+7億52百万円(+9.2%)増 ✓ 大型工事が寄与したことなどによる
■ 連結営業利益	△3億26百万円	前年同期比+1億89百万円増 ✓ 工事原価の低減や経費削減により幾分改善したことなどによる
■ 連結経常利益	△2億87百万円	前年同期比+2億21百万円増 ✓ 営業利益の改善などによる
■ 連結四半期純利益	△2億36百万円	前年同期比+89百万円増 ✓ 営業利益の改善などによる
■ 受注高	86億71百万円	前年同期比+9億79百万円(+12.7%)増 ✓ 建設事業において、民間建築工事が増加したことなどによる
■ 受注残高	37億9百万円	前年同期比+1億41百万円(+4.0%)増 ✓ 建設事業において、民間建築工事が増加したことなどによる

連結損益計算書の概要



- 品質面などの優位性が評価されたことにより、増収
- 価格競争が激化する中で、経費削減などを含む合理化効果により減益幅は縮小

(単位:百万円)

	22/9 (上期)		23/9 (上期)		前年同期比	
	売上高	売上高比	売上高	売上高比		
売上高	8,170	—	8,922	—	+752	+9.2%
売上原価	7,604	93.1%	8,281	92.8%	+677	+8.9%
売上総利益	566	6.9%	640	7.2%	+74	+13.2%
販管費	1,081	13.2%	966	10.9%	△115	△10.6%
営業利益	△515	△6.3%	△326	△3.7%	+189	—
経常利益	△509	△6.2%	△287	△3.2%	+221	—
四半期純利益	△325	△4.0%	△236	△2.7%	+89	—

連結貸借対照表の概要



- 資産: 大型物件の施工が完了したことなどにより債権が増加
- 負債: 大型物件の施工が完了したことなどにより支払手形・工事未払金等が増加

(単位:百万円)

	23/3末	23/9末	前期末比	
流動資産	11,004	12,299	+1,294	+11.8%
固定資産	3,538	3,352	△185	△5.2%
資産合計	14,542	15,651	+1,109	+7.6%
流動負債	4,873	6,322	+1,448	+29.7%
固定負債	1,916	1,952	+35	+1.9%
(有利子負債)	(1,167)	(1,377)	(+210)	(+18.0%)
負債合計	6,790	8,274	+1,483	+21.9%
純資産合計	7,751	7,377	△374	△4.8%
(自己資本比率)	(52.4%)	(46.8%)	(△5.6ポイント)	—

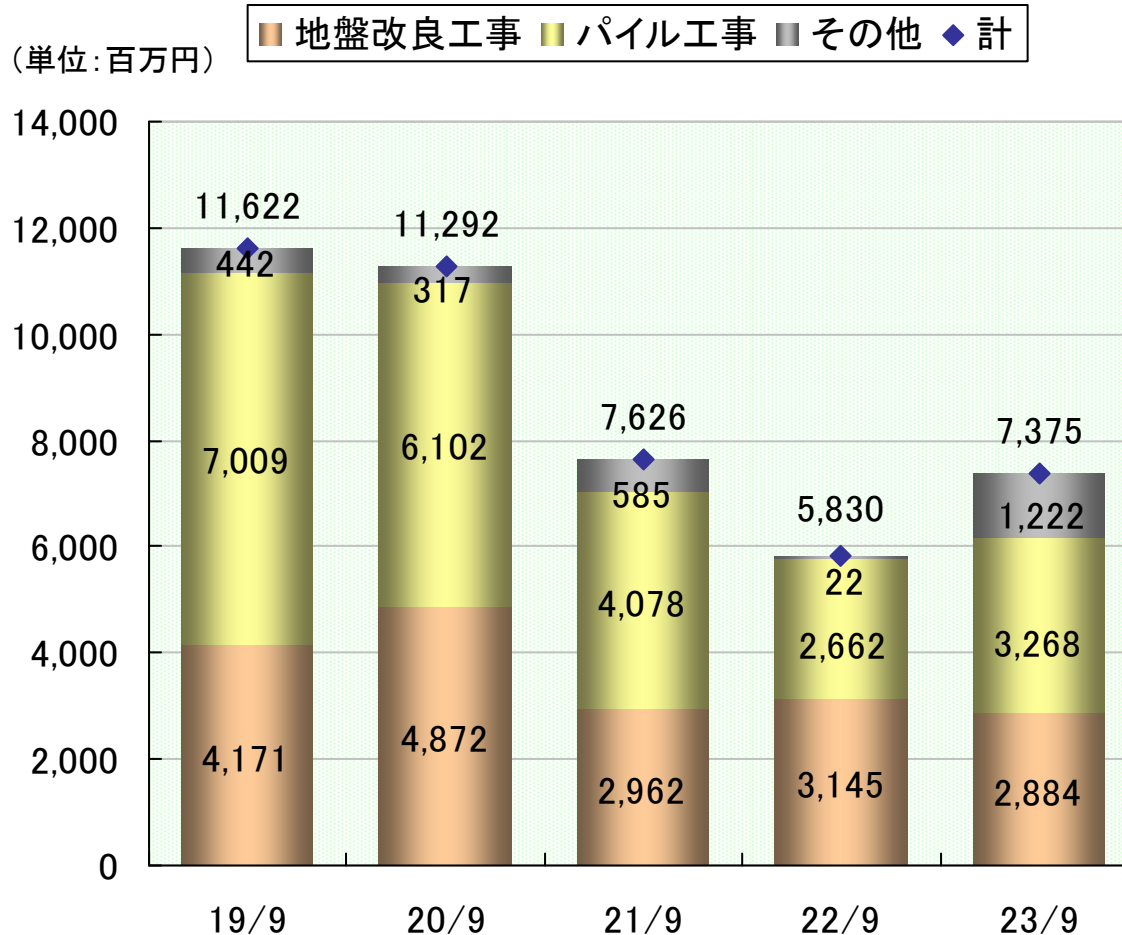
連結キャッシュ・フローの概要



(単位:百万円)

	[参考] 22/9(上期)	23/9(上期)	当四半期の主な要因
営業活動による キャッシュ・フロー	△341	+78	✓ 増加:仕入債務の増加 15億15百万円 ✓ 減少:売上債権の増加 12億22百万円 未成工事支出金等の増加 1億16百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	△40	△5	_____
財務活動による キャッシュ・フロー	△349	△4	_____
現金及び現金同等物 の増減額	△735	+71	
現金及び現金同等物 の四半期末残高	5,009	5,165	

セグメントの状況（単体）



- **パイル工事：**
TN-X工法の採用により
大型民間建築物件が増加
し増収
- **地盤改良工事：**
マンションなどの民間建築
物件が減少したことにより
減収
- **その他：**
大型工事への資材販売が
増加したことにより増収

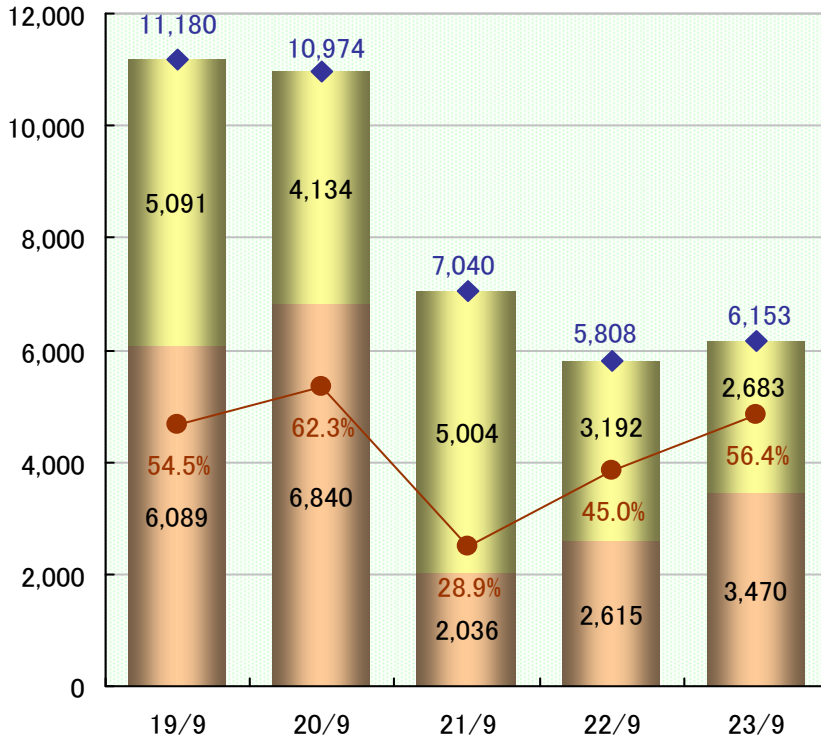
完成工事高の状況（単体）



民間vs官公庁の推移（単体）

■ 民間 ■ 官公庁 ◆ 計 ● 民間の割合

（単位：百万円）

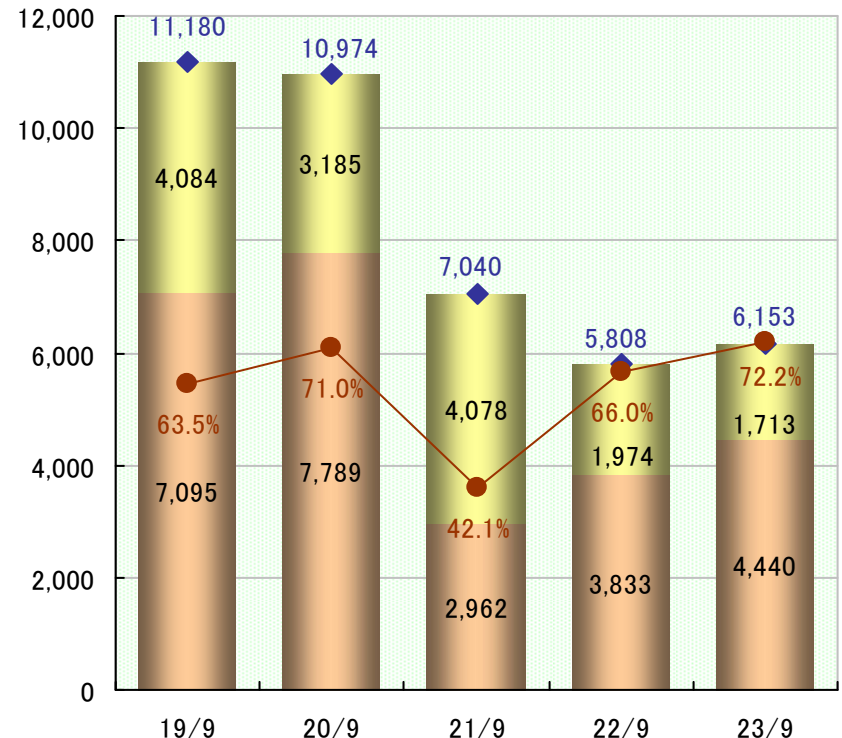


- 民間は、学校などの基礎工事でTN-X工法が採用され増加
- 官公庁は、庁舎や道路など減少

建築vs土木の推移（単体）

■ 建築 ■ 土木 ◆ 計 ● 建築の割合

（単位：百万円）



- 建築は、学校などの基礎工事でTN-X工法が採用され増加
- 土木は、道路など減少



平成24年3月期 第2四半期決算の概要

平成24年3月期 業績見通し

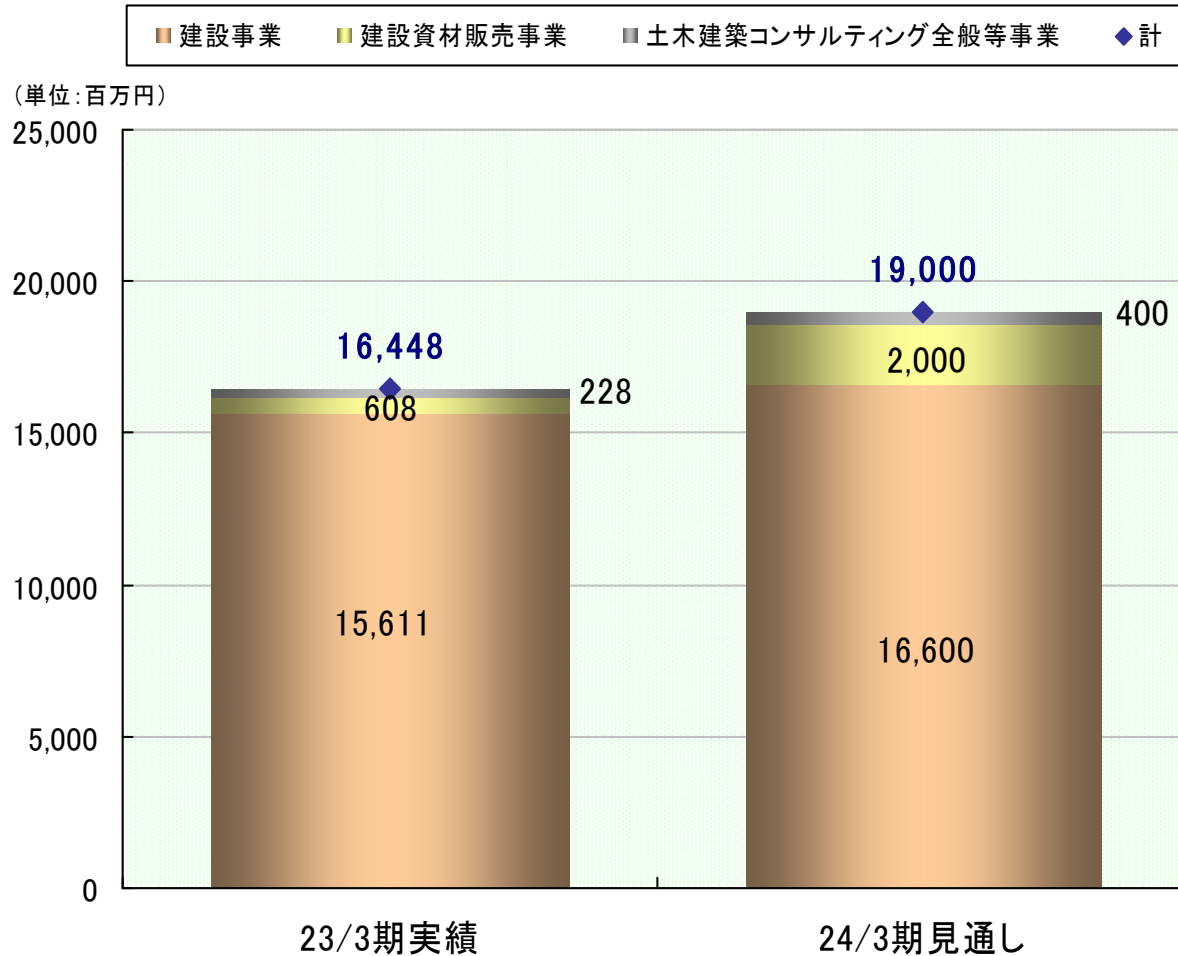
平成24年3月期 連結業績見通し



- 厳しい受注競争により単価は下落傾向にあるものの、当社工法の優位性を発揮するとともに震災後の復興需要で受注の拡大を見込む
- 工事原価の低減や経費削減に取り組むことで損失を縮小

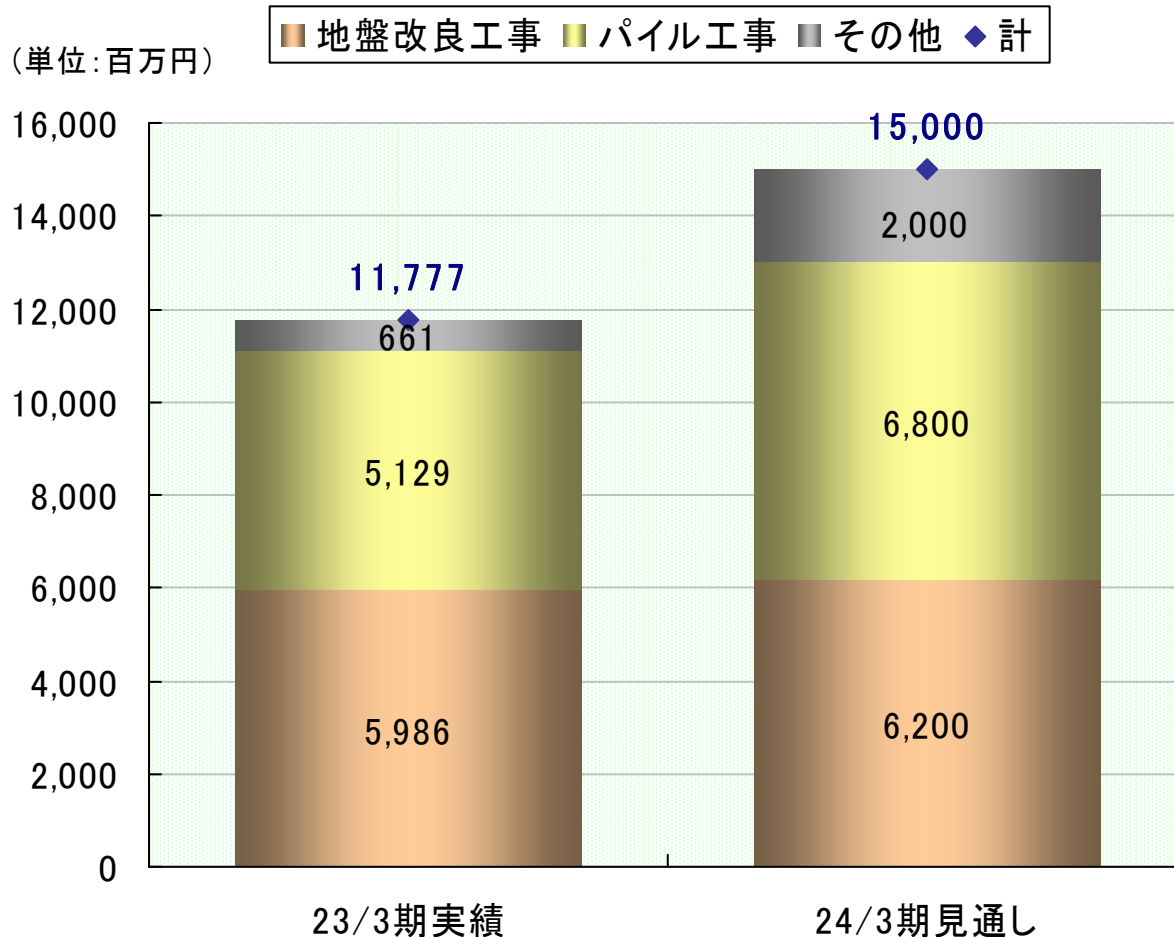
■ 連結売上高	《予想》 190億00百万円	23/3期比+25億51百万円(+15.5%)増 ✓ 当社工法の採用により大型民間建築工事を受注することで増収を見込む ✓ 震災後の復興需要で受注の拡大を見込む
■ 連結営業利益	《予想》 △1億40百万円	23/3期比+6億59百万円増 ✓ 厳しい受注競争の中で徹底した工事原価の低減や経費削減に取り組む
■ 連結経常利益	《予想》 △1億20百万円	23/3期比+6億66百万円増
■ 連結当期純利益	《予想》 △60百万円	23/3期比+6億75百万円増

セグメントの見通し(連結)



➤ 震災後の復興需要や当社工法の優位性が評価され受注が回復することにより増収の見通し

セグメントの見通し（単体）



- **パイル工事:**
当社工法の優位性を発揮することで増収を目指す
- **地盤改良工事:**
液状化対策工法としての強みを活かす
- **その他:**
大型工事への資材販売が寄与し増収

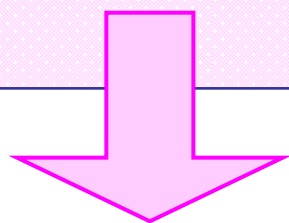
収益力の向上に資する投資の最適化を図る

(単体)

■ 設備投資額	《予想》 1億70百万円	23/3期比△55百万円(△24.5%)減 ✓ 主に震災復興需要に備えた投資
■ 減価償却費	《予想》 3億20百万円	23/3期比△18百万円(△5.4%)減 ✓ 主に施工機械などの償却による
■ 研究開発費	《予想》 50百万円	23/3期比+4百万円(+9.4%)増 ✓ 主に競争力強化のための用途拡大



今後の建設投資は
回復基調の見込み



〔平成23年度の見通し〕

- 民間非住宅建設投資
←12.5兆円(前年比2.8%増)
- 政府建設投資
←18.7兆円(前年比12.8%増)

弊社の強みを
最大限に活用

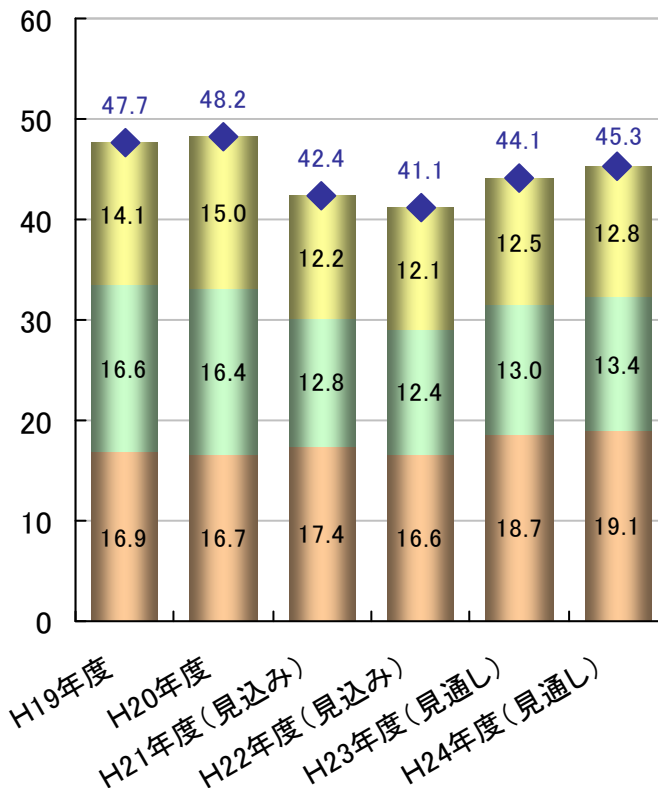
- 独自の高い技術力
- 保有工法の用途拡大
- 震災復興への取組み
←耐震補強対策工法
←液状化防止対策工法 等

現在抱えている
問題点の把握と解決

- 業績回復に向けた競争力の強化
- 更なるコスト削減への取組み

(単位:兆円)

建設投資の推移



- 名目民間非住宅建設投資
- 名目民間住宅投資
- 名目政府建設投資
- ◆ 名目建設投資

出典:「建設経済レポート」No.57(平成23年10月)

経営理念：人間尊重・技術志向・積極一貫

私達は、「信頼されるテノックス」として、これからも土や地盤と素直に向き合いながら、積極的に研究・開発を進めていくとともに、安全・確実な施工管理体制のもと、信頼できる施工をご提供していくことをモットーに、お客様のご要望にお応えしてまいります

本社	〒107-8533 東京都港区赤坂六丁目13番7号
設立	昭和45年7月8日
資本金	17億1,090万円
代表者	代表取締役社長 徳永 克次
従業員数	単体 161名(平均年齢 40.0歳)
営業所	札幌、仙台、名古屋、大阪、広島、福岡
出張所	秋田、金沢
機材センター	船橋



ホームページ：<http://www.tenox.co.jp/>

お問い合わせ先：総務部 IR担当

電話：03-3582-1873

Email：kanbayasi-a@tenox.co.jp

平成23年12月26日から本社は下記に移転する予定であります

住所：〒108-8380 東京都港区芝五丁目25番11号 電話：03-3455-7758